NCNL
No. 23
2008.6

図書館だより

特集：未来の図書館

Contents　ページ

巻頭言「未来の図書館と私」 1
エッセイ「図書館の未来と夢」 2
書評「わすれられないおくりもの」 3
図書館利用統計 4
図書館からのお知らせ 5
人事往来、寄贈図書案内 ほか 6

未来の図書館と私

学長代行　中野正春

私が大学を卒業した直後の頃（昭和50年代）は、論文を書くのに必要な参考文献は医局の図書室をまず探し、あればコピーをしていた。そこにない文献は、学内の文献リストを見て他の科の医局や医学部の図書館にあればそこに頼んでコピーしてもらっていた。それらになければそれ以上探すのはほとんど不可能であった。だから医局の図書室はだんだん拡張せざるを得ない状況で、研究室の一つが図書室に合併したこともあった。それから30数年経過した今、電子媒体の発達により状況が一変してきている。まず文献を検索する方法であるが、昔は雑誌が何年間か発行されるごとに総索引が必ず付録的についていて、いちいち個々の雑誌を見なくてもある程度の期間分まとめて検索できる工夫がされていた。それとて現在では文献検索でキーワードを数個入れればたちまちのうちに何百、何千という論文がリストに出てきて、逆に絞り込むことがかえって大変な状況になることもある。そこで抽出した論文の取り寄せも経費を考えなければコピーを1週間程度で取り寄せることができる。また、論文そのものも電子ファイル化されインターネット上で抄録程度であれば即座に見ることができる。このように急速に発展する情報革命の中で未来の図書館は一体どのようになるのかを考えてみた。まず図書は次第に電子機器化するのではないか。実際、最近では私が購読している雑誌には「インターネットで手術が見れる」というNet Surgeryが毎月1つずつ掲載（？）されているし、携帯電話で小説をダウンロードしていつでもどこでも見れるということも現実である。このようなことから図書そのものが次第に電子図書化されると思う。また最近のデジタルテレビにおける双方向性やデータ放送などを見ると未来の図書館は次のようになると想像する。未来の図書館は蔵書がなくインターネットの端末が無数にあり、キーワードを入力すると目的のもの（本？）が出てくる。さらにその内容の中には動画が何か所も組み込まれている。さらにリンクが多数あって関連する事項や文献に連結するという形になっているのではないか。だから将来の図書購入費は今もあるような、文献検索ネット加入料になるだろうし、大学の中のような限局した空間では学内LANで対応すれば図書館というスペースそのものも無くなるのかもしれない。以上思いつくままに書いてみました。

連載企画1　図書館の未来と夢

大学院看護研究科1年 [redacted]

私は社会人学生として、大学院にお世話になっています。20年ほど前の学生、そして看護師として働き始めた頃図書館は身近な存在でしたが、当時の図書館の利用は、明日の看護、業務をどのようにこなすか、そのために必要な知識、技術は何かを得るための勉強部屋でしかありませんでした。大学病院に勤務していた頃は現在のようにインターネット検索は発達していませんでしたが、学習環境としては恵まれていました。その後、地方の病院に勤務している私は再び図書館から遠ざかってしまい、看護師としての経験だけが山積みとなっていながら、自らを説明できないさまよえる看護師になっています。世の看護師にかぎらず、多くの患者たちはさまよう日々をおくっているのではないでしょうか。私はそのような時再び学生となることができました。図書館は私にいろいろな著者との出会いの場を与えてくれています。そして考える場も与えてくれます。私にとって図書館は知識を詰め込む勉強部屋ではなくなりました。

私にとって図書館は近代的な設備の整った教会のような存在と考えます。新潟県立看護大学の大きな2つの扉をくぐり、食堂をぬけると、教会がある。中に入り、神父さんに軽く頭を下げ、出会いを探す。まとめて4～5人をかかえて2階へ上がり、本たちと語り合う。読み疲れた時は、関川を泳ぐカモたちをぼんやり眺めながら考え事をする。（勤務時間で迷惑をかけている職場には感謝しています。）

私にとって新潟県立看護大学は、地域に開かれた大学という印象があります。インターネットは自分で情報検索しないと気付かないが、「ドコカレ」どこでもカレッジプロジェクトのポスターは、私の職場にも掲示されインパクトがあります。しかし図書館の学外者受付数は2007年度で、1435人（1日あたり5人ほど）であることがホームページからわかりました。蔵書49000冊近くもあるのに外部の利用が随分少ないと私は思います。学外者とはどのような者かは、不明ですが、おおむね医療関係の者の利用であろうと予測します。看護師は患者があってこそ看護を行うことができます。私の図書館の夢は、医療関係者にかかわらず、患者とその家族も図書館を利用できるような工夫があればよいと考えます。例えば病院の患者だよりなどに図書館の情報を載せたり、21時消灯で眠れない患者のために図書館の利用時間を22時まで延長する。視覚障害者用に、キーワードを発声するだけで、図書が卓上に運ばれて、さらには本を指でなぞると音読してくれるような機能があると理想的です。図書館で読んだ本や借りた本で繰り返し読みたい場合は、図書カード（学生証）などに履歴が残されていて、書棚を探さなくても即座に本が書棚から取り出されるシステムも便利かもしれません。図々しく続けますが、館内でお茶を飲みながら、なんて場所もあれば申し分なく、土手をジョギング、ウォーキングしている人々さえ呼び込んでしまおうなんて考えると大学裏にも大きな入口を設ける。横柄な夢ですが、さまよえる人たちに救いの手を差し延べることは必要です。

看護学科１年 [redacted]

図書館が今後、地域のコミュニティのひとつとして、より一層多くの方利用して頂くための展望を掲げる。図書館が本の貸し借りに留まらず、静かな場であることを活かし、芸術展等の催し物を行ったり、スコーラ(※)を開講したり、多機能な施設になる。また来館して頂いた多くの方に本と触れ合える場を提供する。図書館は、本を借りると同時に多くの専門書、一般書に触れられる学びの場でもあるため、多目的なスペースを確保することで、学術的なコミュニティとして出来上がる。そして、専門書や一般書の貸出の他に、教養・一般新書の種類の拡充を行い、今以上の来館者の要望に応え、本以外にも映画および音楽鑑賞にも適した場となる。さらに図書館の開館時間を延ばすことで、社会人を含む多くの方が利用できるようになり、人々の憩いの場として、そして道の駅のようなその地域の特性に根ざした多目的な複合施設となるであろう。

またIT社会・情報化社会の到来により、地方の図書館が全国の図書館とネットワーク上で、電子書籍となった蔵書を「いつでも、どこでも、だれでも」が利用できるユビキタスネットワークが構築されるようになる。このようなユビキタスネットワークの到来により、図書館に行く時間がない方、遠方の国立国会図書館のような図書館に出向く機会がない方に、いつでも、どこでも図書館が提供するサービスを受けられる、そんな社会を展望する。

しかしながら、本を借りるために図書館に行くことは、とても重要なことである。直接行き、本棚を眺めることで、目的の本以外にも興味・関心を引く本を同時に眺められ、より多く本に触れる機会が増すため、書籍自体の必要性は残される。

よって未来の図書館は、本の貸出以外にも多目的な施設として、多くの方が来館して、本に触れる機会を増やし、学びの場として集約された学術的な施設になるであろう。（※編者注：スコーラ（scuola）=イタリア語。英語のschoolと同義。具体的には資格取得や技術習得のための課外講座のこと。）

連載企画2 書評

私と図書館、そして未来の図書館へ
『わすれられないおくりもの』

スーザン・バーレイ さくえ、小川仁央 やく 評論社 1986

准教授　小林恵子

昔、子育て真っ最中のころ、まちの図書館は生活と深くかかわっていた。出産のために休暇に入ると上の息子たちと一緒に毎日図書館に通った。息子たちには読み聞かせのための好きな絵本などを選ばせ、私は自分の読みたい小説を探した。出産前は何かと行動範囲が制限される一方で、息子たちが昼寝をした後はゆったりと自分だけの読書の時間を味わうことができた。

息子たちが学校に通うようになると、学校の図書館から毎週、好きな本を借りてきた。仕事から帰宅しても家事や持ち帰った仕事に追われ、慌ただしく過ごす毎日だったが、子どもたちが寝るときの本の読み聞かせだけは続けていた。最初は私が息子たちに読ませたい本を選び、やがて、息子たちは自分で読みたい本を探し、そこに息子の友達、先生、司書から勧められた本も加わるようになった。そのなかの一つに『わすれられないおくりもの』」（スーザン・バーレイさくえ /小川仁央やく / 評論社）がある。一緒に読み終わった後、その場で動けなくなってしまうほど深い感動を覚えた。深い悲しみにおそわれる大切な人の死について、思い出として自分の中に生きていることに気づくことで、永遠のつながりを感じ、その悲しみを乗り越えることができるということを教わった。

やがて息子たちは成長し、高校や大学の図書館は学習のために活用する場となり、まちの図書館へは自分の好きな本を探しに出かけていくようになった。私にとって大学の図書館は授業や研究で資料を探す場であり、休日には生活への潤いを求めてまちの図書館に出かける。

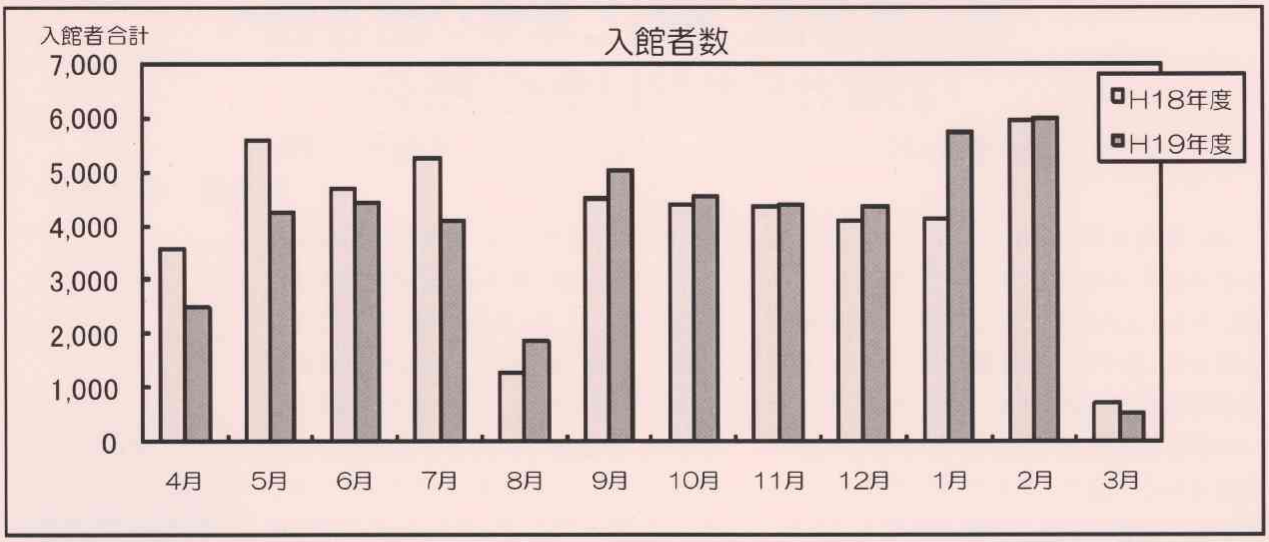
他大学の図書館に行き、資料を検索したり、書棚を眺めると、そこにおられる(た)先生方が何を大切に研究され、何を学生に伝えたかったのかが感じ取れる。図書館は時間、空間を越えて、たくさんの情報や人の心や体験をつないでくれる。これからの図書館には情報だけでなく、人と人をもつなぐ場が欲しい。図書館では資料を探したり、本を借りるだけではなく、持ち出しできない本をゆっくりと読んだり、ディスカッションできる場も欲しい。最近では、図書館内にディスカッションできるようなミーティングルームを設けたり、蓋つき容器での飲み物を許可しているところもある。六本木にある会員制の図書館はカフェもあり、そこで本を読んだりすることもできるし、気に入った本をその場で購入することもできる。

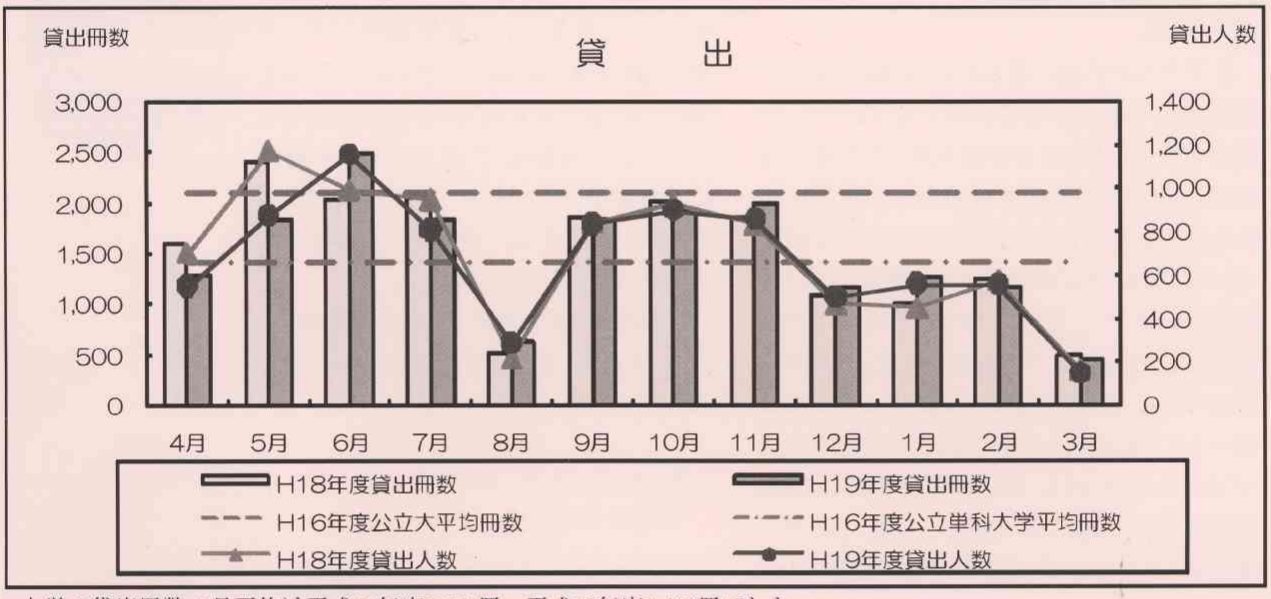
図書館が、探し求めていた本と出会え、また、人と人とをつなげる空間であることを願う。

○請求記号:N400. 3－V42
（棚3左側(1階)）

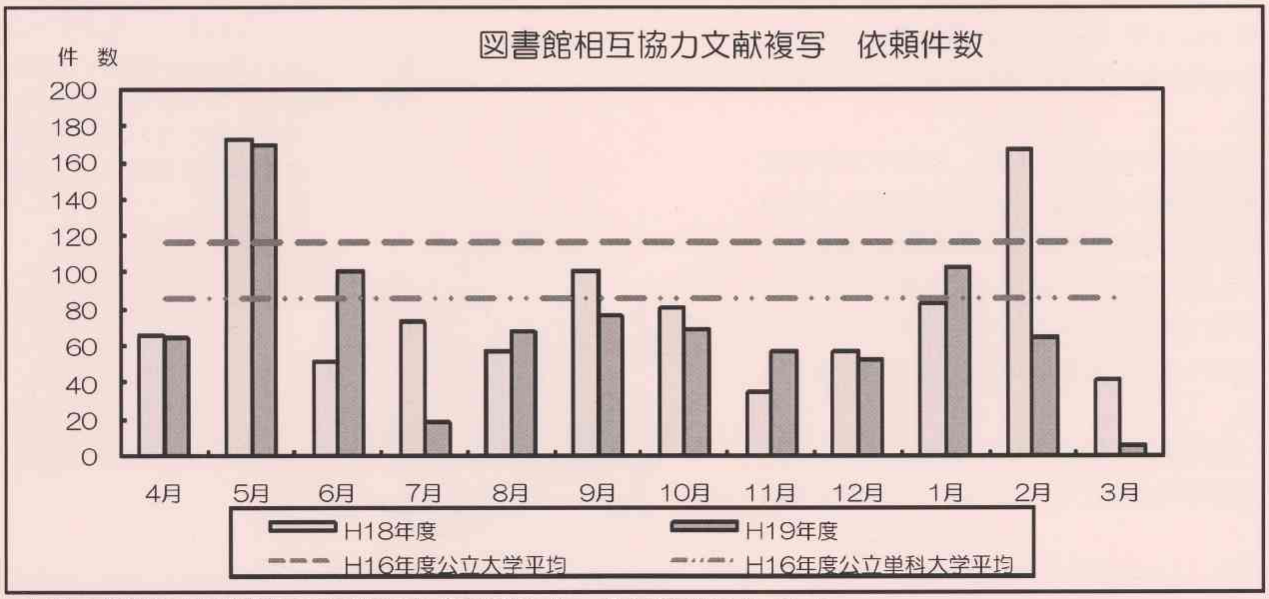
スーザン・バーレイ
Susan Varley (1961-) 英国ブラックプール生まれの創作絵本作家。
「わすれられないおくりもの」の原題は "Badger's Parting Gifts"。日本では電力会社のコマーシャルでアナグマシリーズを担当していた。本書は「**心の痛みを癒すような本**」と絶賛され、各賞を受賞。

図書館利用統計　～2カ年度の比較～





本学の貸出冊数の月平均は平成18年度1,514冊、平成19年度1,490冊でした。
平成16年度における全国公立大学の貸出の月平均冊数は2,106冊、公立単科大学だけでは1,407冊でした。



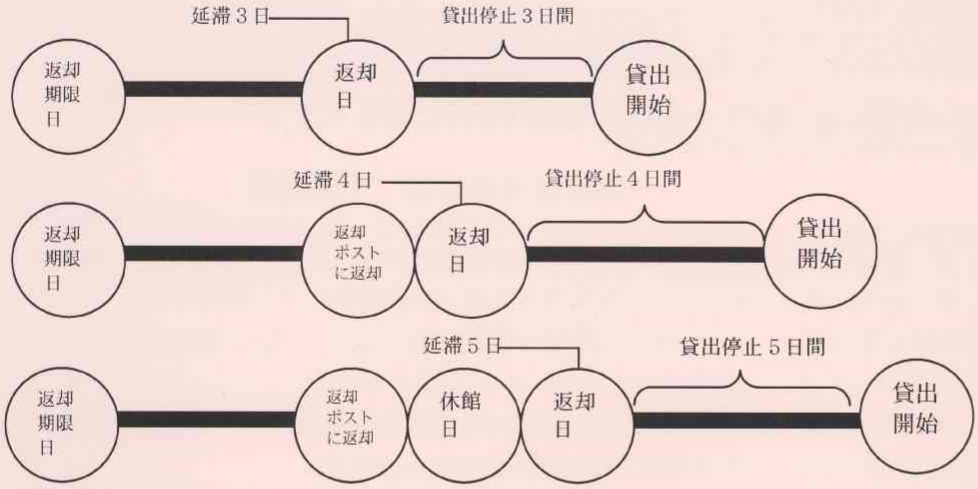
本学の文献複写依頼件数の月平均は平成18年度82件、平成19年度71件でした。
平成16年度における全国公立大学の依頼件数の月平均は117件、公立単科大学だけでは86件でした。

図書館からのお知らせ

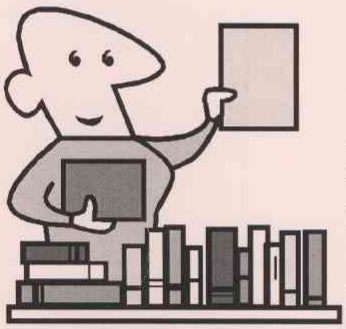
延滞のペナルティに注意

悲しいことですが、図書の返却期日を守らない人が増えてきています。貸出予約をした人の手になかなか回らず困っています。そのためやむをえず、4月より延滞者へのペナルティを強化しました。

- 返却後も延滞日数分の貸出停止となります。
- 図書館で返却処理をした日が、延滞の起算日になります。したがって、返却期限日に返却ポストに入れた場合は、延滞1日＝貸出停止1日となります。
- 延滞中の休館日も、延滞日数に含まれます。
- 貸出停止中は、他の本の貸出延長、予約はできません。



図書のリクエスト方法



こんな本があったらいいな！

学生リクエストを受け付けています。

「こんな本があったらいいな」「友達に読んでほしい」という本やDVDなどがありましたら、図書館へ購入リクエストをしてください。

“購入希望調査票”に、書名、著者、出版社、出版年等の書誌事項を記入し、そのほかに、購入を希望する理由なども添えて提出してください。

限られた予算ですので100％応えることは厳しいところですが，できるだけ希望に沿うよう揃えていきたいと思っています。

なお、雑誌は年間契約となるため、学生のリクエスト対象外としています。ご了承ください。

海外文献検索データベース利用説明会の報告

5月15日と22日の両日、PsycINFOおよびCINAHLの利用説明会を、LL教室で行いました。講師は、各データベースのベンダー会社からお呼びしました。院生と教員の参加があり、2日間で延べ14名の参加がありました。

基本のキーワード検索のほかに、「検索履歴」や「シソーラス検索」「インデックス検索」（出版物検索）などの使い方の説明がありました。また、昨年度行われた利用説明会と異なる点では、検索者個人ごとに検索画面をカスタマイズしたり、必要な検索結果を自動的に配信させる機能についての説明がありました。この利用説明会について、希望者には、資料の配布および図書館職員による説明会を開催しますのでお申し出ください。

人事往来、寄贈図書案内

お世話になりました～退職者からのメッセージ～

前・嘱託司書　清水かすみさん

学生のみなさんや看護に携わる方々の学ぶ姿勢に刺激され、ご指導をいただきながら、有意義な時間を過ごすことができました。

今後も看護大の皆様の益々のご発展をお祈りいたします。ありがとうございました。

前・開館延長嘱託員　阿部昭さん

図書館業務は初めてであり戸惑う事ばかりでした。でも職員皆様の暖かいご指導を賜りどうやら5年間の勤務を全うすることが出来ました。少しは看護学生のお役に立てたでしょうか。これも皆々様のお陰と感謝申し上げます。長い間お世話になり有難うございました。

よろしくお願いします～新採用職員のごあいさつ～

嘱託司書　飯塚浩子

1年振りにまたこの大学図書館で働かせていただくことになりました。利用者の皆様に「図書館に来てみて良かった♪」と思っていただけるよう努めてまいります。よろしくお願い致します。

開館延長嘱託員　小熊健憲

4月からお世話になっています。まだまだ仕事に慣れていませんが、1日も早く仕事を覚え、皆様のお役に立つように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

寄贈図書案内

下記のみなさまより著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。(2007/11/1～2008/5/31受入分)

	寄贈者	書　名	出版年	請求記号
教員	中村博生	115 English adjectives for junior high school students　中学生のための英語形容詞115	2007	375.893-N37
学外	吉良潤一	難病医療専門員による難病患者のための難病相談ガイドブック	2008	369.9-Ki51
	小林英起子	ケルン大聖堂の見える街	2004	302.3-Ko12
	小谷　武	商標教室　基礎篇	2003	507-Ko92-1
		商標教室　判例研究篇1	2003	507-Ko92-2
		商標教室　判例研究篇2	2003	507-Ko92-3
	田井中克人	京都ジフテリア予防接種禍事件	2005	498.6-Ta22
	広野照海	看護のこころ　増補版	2007	N049-H71-1
		看護のめぐりあい　増補版	2007	N049-H71-2
		看護のふれあい　増補版	2007	N049-H71-3

新規寄贈受入紀要タイトル(2007/11月～2008/5月受入分)

〈五十音順〉

The synthesizer (沖縄県立看護大学)	埼玉医科大学看護学科紀要
岩手女子看護短期大学紀要	新潟県理学療法士学会学会誌
大阪市立大学大学教育	新潟青陵大学大学院臨床心理学研究
高知大学看護学会誌	四日市看護医療大学紀要
甲南女子大学研究紀要．看護学･リハビリテーション学編	

図書館だより　第２３号（２００８年６月２６日発行）
編集：新潟県立看護大学　図書委員会　　発行：新潟県立看護大学　図書館
〒９４３－０１４７　上越市新南町２４０番地　　ＴＥＬ：０２５－５２６－１１６９
E-mail：tosyo@niigata-cn.ac.jp　　ＵＲＬ：http://lib.niigata-cn.ac.jp/